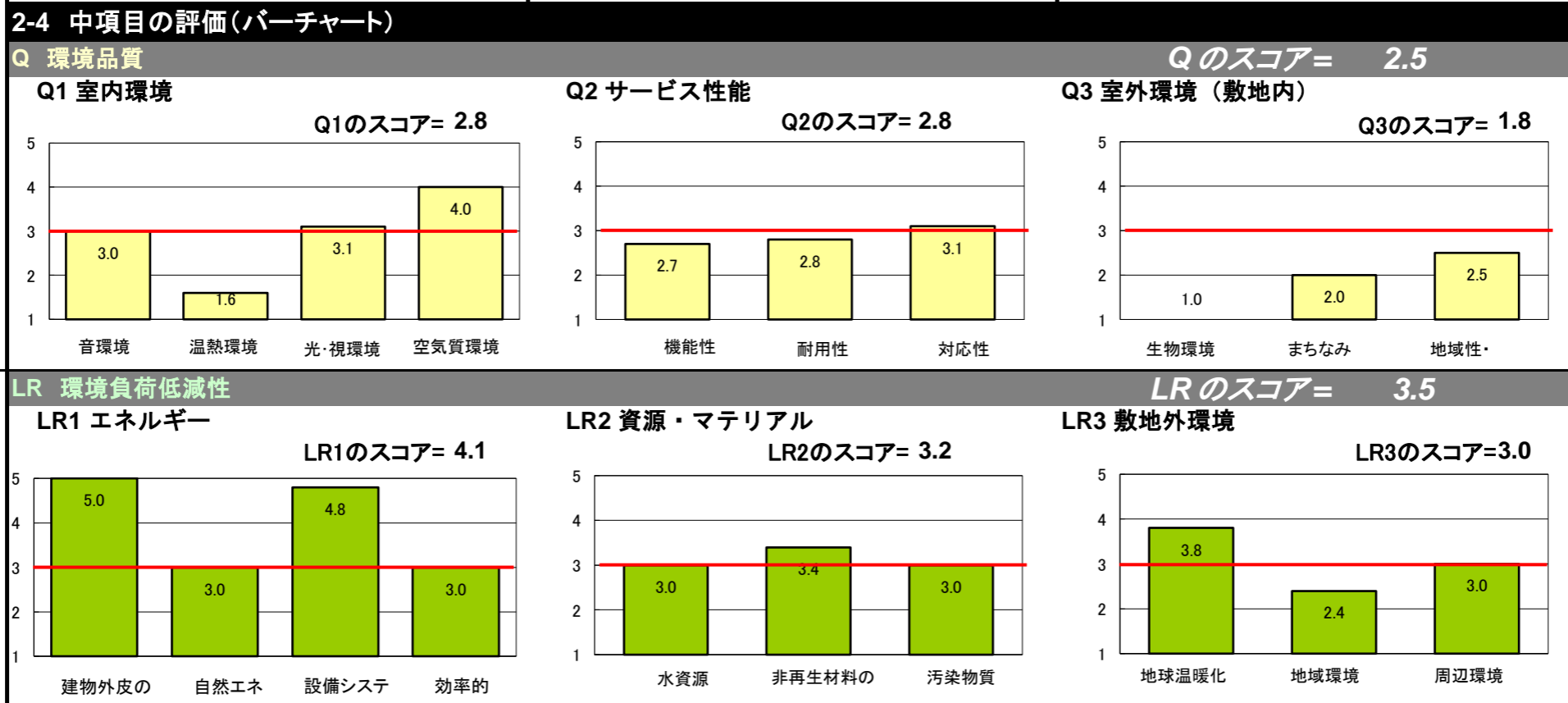
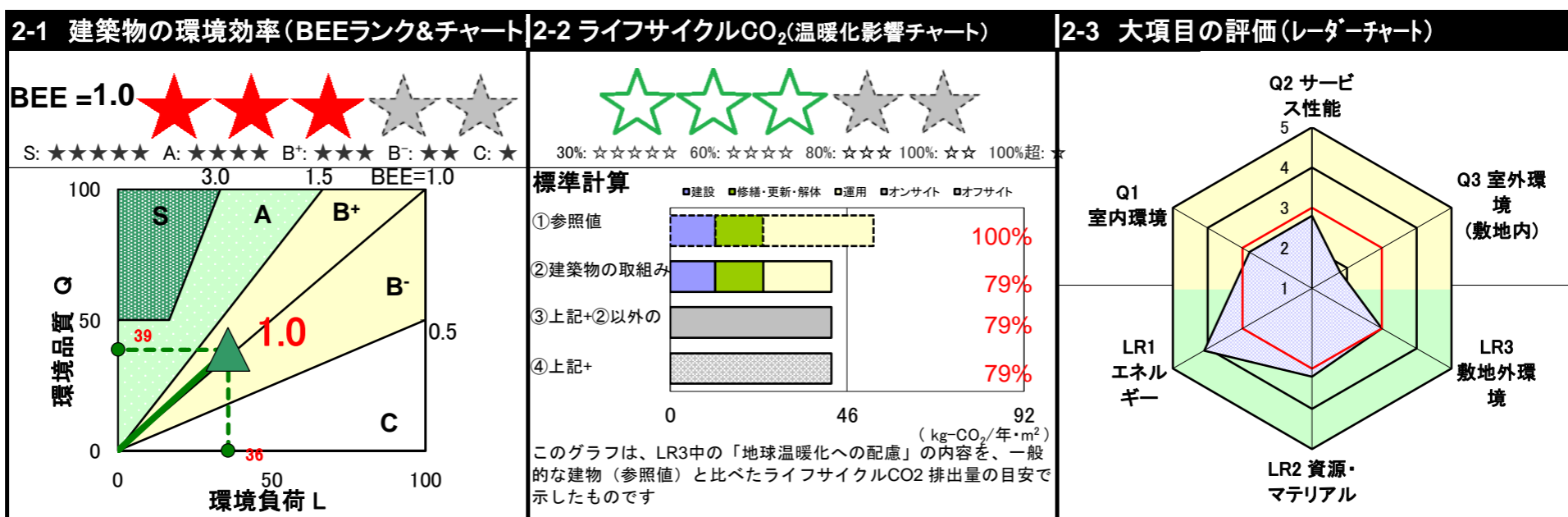


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	住吉幼稚園	階数	地下1階地上2階
建設地	愛知県刈谷市神田町二丁目3番8	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第二種住居地域	平均居住人員	313 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年2月 予定	評価の実施日	2020年3月20日
敷地面積	4,824 m ²	作成者	佐藤嘉一
建築面積	1,298 m ²	確認日	2020年3月20日
延床面積	2,695 m ²	確認者	加藤知徳



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>3.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.1</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									2.5	
Q1 室内環境						0.40			2.8	
1 音環境						0.1	3.0	0.15		3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	3.0	0.40		3.0
1.2 遮音						0.4	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能							3.0	0.30		3.0
2 界壁遮音性能							3.0	0.30		3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0	0.20		3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0	0.20		3.0
1.3 吸音							3.0	0.20		3.0
2 温熱環境						0.3	1.6	0.35		1.6
2.1 室温制御						0.5	2.2	0.50		
1 室温						3.0	3.0	0.60		3.0
2 外皮性能						3.0	1.0	0.40		3.0
3 ゾーン別制御性						3.0	3.0	-		-
2.2 湿度制御						3.0	1.0	0.20		3.0
2.3 空調方式						3.0	1.0	0.30		3.0
3 光・視環境						0.2	3.1	0.25		3.1
3.1 昼光利用						0.3	4.2	0.30		
1 昼光率					昼光率 4.0%	3.0	5.0	0.60		3.0
2 方位別開口										3.0
3 昼光利用設備						3.0	3.0	0.40		3.0
3.2 グレア対策						0.3	4.0	0.30		
1 昼光制御					カーテン・庇の併用	5.0	4.0	1.00		3.0
3.3 照度						3.0	3.0	0.15		3.0
3.4 照明制御						3.0	1.0	0.25		3.0
4 空気質環境						0.2	4.0	0.25		4.0
4.1 発生源対策						0.5	5.0	0.50		
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆を全面的に使用	3.0	5.0	1.00		3.0
4.2 換気						0.3	3.0	0.30		
1 換気量						3.0	3.0	0.33		3.0
2 自然換気性能						3.0	3.0	0.33		3.0
3 取り入れ外気への配慮						3.0	3.0	0.33		3.0
4.3 運用管理						0.2	3.0	0.20		
1 CO ₂ の監視						3.0	3.0	0.50		
2 喫煙の制御						3.0	3.0	0.50		
Q2 サービス性能								0.30		2.8
1 機能性						0.4	2.7	0.40		2.7
1.1 機能性・使いやすさ						0.4	3.0	0.40		
1 広さ・収納性						3.0	3.0	-		3.0
2 高度情報通信設備対応						3.0	3.0	-		3.0
3 バリアフリー計画					独自	3.0	3.0	1.00		-
1.2 心理性・快適性						0.3	2.0	0.30		
1 広さ感・景観 (天井高)						3.0	1.0	0.50		3.0
2 リフレッシュスペース						3.0	3.0	-		-
3 内装計画						3.0	3.0	0.50		-
1.3 維持管理						0.3	3.0	0.30		
1 維持管理に配慮した設計						3.0	3.0	0.50		-
2 維持管理用機能の確保							3.0	0.50		-
2 耐用性・信頼性						0.3	2.8	0.31		2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.0	0.48		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	3.0	0.80		-
2 免震・制震・制振性能						3.0	3.0	0.20		-
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.0	0.33		
1 躯体材料の耐用年数							3.0	0.23		-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					②		3.0	0.23		-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							4.0	0.09		-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.08		-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							3.0	0.15		-
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.23		-
2.4 信頼性						0.1	2.2	0.19		
1 空調・換気設備						3.0	3.0	0.20		-
2 給排水・衛生設備						3.0	2.0	0.20		-
3 電気設備						3.0	1.0	0.20		-
4 機械・配管支持方法						3.0	3.0	0.20		-
5 通信・情報設備						3.0	2.0	0.20		-

3 対応性・更新性			0.2	3.1	0.29	-	-	-	3.1	
3.1 空間のゆとり			0.3	4.0	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	②	階高3.8m	4.0	0.60	-	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0					0.40
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	3.0	
3.3 設備の更新性			0.3	2.6	0.38	-	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		2.0	0.17	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	2.0					0.17
3	電気配線の更新性			3.0	3.0					0.11
4	通信配線の更新性			3.0	3.0					0.11
5	設備機器の更新性			3.0	3.0					0.22
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0					0.22
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	1.8	
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	2.0	0.40	-	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	3.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	4.1	
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	5.0	0.30	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BPI _m = 0.62	3.0	4.8	0.30	-	4.8	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-		
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.2	
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 節水				3.0	3.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-		
1				3.0	3.0	0.67	-	-		
2				3.0	3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.4	0.63	-	-	3.4	
2.1 材料使用量の削減			②	-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	4.0				0.20
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0				0.05
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					独自	3.0				4.0
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-		
1				-	2.0	0.33	-	-		
2				-	4.0	0.33	-	-		
3				3.0	3.0	0.33	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.0	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率 93%	3.8	0.33	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮				0.3	2.4	0.33	-	-	2.4	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-		
1			独自	-	3.0	0.25	-	-		
2			独自	-	3.0	0.25	-	-		
3			独自	-	3.0	0.25	-	-		
4				-	2.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-		
1			独自	-	3.0	1.00	-	-		
2			独自	-	-	-	-	-		
3				-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-		
1				-	3.0	0.70	-	-		
2				-	3.0	-	-	-		
3				-	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-		
1				-	3.0	0.70	-	-		
2				-	3.0	0.30	-	-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:3.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>建物の下に駐車場を設け、土地の有効活用をする。 広い庇を設け、太陽光・雨と共に上手く共存できる建物を目指す。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>全面的にF☆☆☆☆の材料を使用することや適切な換気計画とすることで、室内空気質環境に配慮している。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>耐用年数の長い材料や防汚性材等を採用し、建物の維持管理に配慮している。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地境界から後退した建物配置とし、園庭にも植栽をすることで、周辺環境に配慮した計画としている。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>LED照明等による設備システムの効率化を計画することにより、エネルギー消費を低減させることに配慮している。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>出来る限り再利用製品を使用する。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>建物を隣地境界線より出来るだけ離して配置し、圧迫感を与えないように配慮した。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>